

遊びの人類学 ことはじめ

フィールドで
出会った
子どもたち

サルも遊ぶ、ヒトも遊ぶ。

人類学のまなざしで両者を観察してみたら何が見えてくるだろうか？ 種の違いを超えた普遍性とは？
そこには現代に生きる子どもを考えるためのヒントが隠されているかもしれない。

亀井伸孝◎編 四六判 並製 224頁 定価 2520円 (5%税込)

目次

- はじめに——遊びを人類学してみよう
- 人の遊びをどうとらえるか——遊び論の二つの系譜
遊び研究の〈むずかしさ〉と〈おもしろさ〉
——動物行動学からみた系譜
- 森に遊び森に学ぶ
——狩猟採集民の子どもの遊び
- ニホンザルの遊びの民族誌
——金華山・嵐山・幸島・志賀高原のコドモたち
- 人間らしい遊びとは？
——ヒトとチンパンジーの遊びにみる心の発達と進化
- いまの子どもは本当に遊ばなくなったのか
——野外体験にみる子どもたちの遊び

執筆者 (執筆順)

- 亀井伸孝
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員)
- 島田将喜
(帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科講師)
- 明和政子
(京都大学大学院教育学研究科准教授)
- 川村協平
(山梨大学教育人間科学部教授)



図書出版 **昭和堂**

〒606-8224 京都市左京区北白川京大農学部前 TEL 075-706-8818/FAX 075-706-8878

お求めは、お近くの書店・大学生協もしくは小社ホームページ (<http://www.kyoto-gakujutsu.co.jp/showado/>) へ